

会報

幸 わ せ

第194号

発行者
 社会福祉法人
 長野市身体障害者福祉協会
 理事長 小林和夫
 〒380-0904
 長野市大字鶴賀276-10
 (長野市障害者福祉センター内)
 電話 228-3014
 ファクス 226-6263

復興に向けて

（ONE NAGANO を合言葉に）

長野市長 加藤 久雄



年始に当たり、謹んでごあいさつを申し上げます。

日頃は市政に対し、御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

特に、昨年10月の台風第19号による災害においては、全国各地からのボランティアの皆様など、市内はもとより全国各地から様々な御支援、御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

過去最大級の災害は、市政と市民生活に大きな被害を与えました。市民の皆様が、被災前の穏やかな暮らしを取り戻すとともに、今回の災害の経験を教訓とし、長野市が災害に強く、幸せて元氣な都市として復興できるよう、被災された方お一人お

ひとりに寄り添った生活再建支援や、インフラの復旧と強靱化などを進めてまいります。

将来の世代にわたり安心して暮らせる長野市とするため、昨年12月に設置した長野市災害復興本部を中心に、今年を「復興元年」と位置付け、「ONE NAGANO」を合言葉に、福祉、医療などの社会保障関連の経費などにも配慮しながら強力で押し進めてまいります。

また、本市では障害者基本計画、障害福祉計画、障害児福祉計画に基づき、様々な障害者施策を進め、だれもが自分らしく暮らせる社会の形成を図るとともに、幸せ実感都市長野に向けて全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様の今年一年の御多幸と御健康を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

賀 正

新年あいさつ

理事長 小林 和夫



新年明けましておめでとうございませう。皆様には穏やかに新年をお迎えに新年をお迎

えの事とお慶び申し上げます。昨年19号による想定を越える大雨害により長野市も大きな被害を受けました。被害を受けた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。幸いにも、会員の皆様に人的被害の無かつた事が何よりでした。

さて、障害者差別解消法が施行されて4年を経過しようとする今日、県は「長野県障がい者共生社会づくり条例（仮称）」の策定を進めていきます。この条例に、「心のバリアフリー」、「社会モデルに基づく街づくり」、「具体的な差別を解決する組織づくり」の三点を大きな柱として盛

り込むように要望をしています。

「心のバリアフリー」に関連して、差別の具体例を体系的に分類して、できるだけ数多く条例に反映する必要があるとあります。「差別」は差別を受けている当事者でないと理解できないケースが数多くあります。それらのケースをできるだけ多く条例に反映させることが必要です。皆様から多くの事例について報告いただきませう、ご協力をお願いします。

条例に明示した差別を、長野県は決して許さないというアピールを県民へ届けることが条例の一番の目的です。時代の変化に伴い、これまでとは異なる新たな形態の差別の発生も想定されます。条例はこれ等のケースにも対応していかなければなりません。そのためには、皆様からの時間の経過に伴う新たな差別の事例の継続的な報告をお願いします。結びに、皆様のご健康とご多幸を祈念して、年頭のあいさつといたします。

市長要望の報告

12月25日長野市役所において加藤久雄市長に、昨年の市身体障害者福祉大会において決定された「大会決議」の内容について要望しました。市長からの回答(要旨)は次のとおりです。

1 国の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」において、共生社会の実現に向けた大きな二つの柱としている、「心のバリアフリー」分野と「街づくり」分野について、力強い推進と積極的な啓発活動への取り組みを要望します。

- ・「心のバリアフリー」については、障害者週間(12/3~9)に合わせて啓発活動を行っている。
- ・長野市障害者差別解消連携協議会を設置し、加盟団体の商工団体を通じて、民間事業所へも障害者理解促進のための研修の実施を促していく。

- ・「長野市障害者にやさしいお店登録制度」事業を開始する。これは「心のバリアフリー」の気持ちがある店を市で登録し、障害者の社会参加を支援していくものである。
- ・「ユニバーサルデザイン、バリアフリー」について、長野市障害者基

本計画庁内推進会議ユニバーサル専

門部会を設置し、ユニバーサルデザイン推進のため、庁内への働きかけを行っていく。

- ・市道については、歩道と車道の段差解消事業、バス停の構造改良、横断地下道の階段改修などを実施し、バリアフリー化を図っている。

- ・建物については、施設の新築等にあわせ指導、助言等を行ない、バリアフリー化の促進に努めていく。

- ・交通については、鉄道駅のエレベーター設置などのバリアフリー化促進にむけ、国や県とともに補助金を交付し、促進に努めていく。
- ・ノンステップバスについては、引き続き、導入を促進していく。

- ・ユニバーサルデザインタクシー導入普及について、事業者や関係機関と情報共有を図っていく。

2 障害を理解するための理念である「社会モデル」の理解・啓発、特に学校教育の場における推進を要望します。

- ・学校教育では、「心のバリアフリーの充実」に向けて、市内全校が人権教育研究指定校となっている。また、市立小・中学校



全79校を東京2020教育プログラム学校事業認証校として登録している。今後も学校教育の場において、「社会モデル」を踏まえた心のバリアフリーの教育を一層推進していく。

- ・教員が『心のバリアフリー』の理解に向けたパラスポーツや人権教育の理解を中心とした研修を重ねている。

- ・副学籍制度を活用し、特別支援学校の児童生徒が居住地の市立小中学校児童生徒とともに学ぶ交流及び共同学習を推進している。また近隣の特別支援学校と小・中学校とが継続的に交流活動を行っている。
- ・障害のある児童・生徒に、合理的配慮を目的にタブレット型端末や、デジタル型補聴援助システムを配備している。また、特別支援教育支援員の配置や学校施設改修にも取り組んでいる。

3 障害者福祉政策に係る予算の拡充を要望します。

- ・「障害者基本計画」「障害福祉計画・障害児福祉計画」に基づき、さまざまな施策を計画的に推進している。
- ・次期計画を策定中であり、市民、障害当事者、障害福祉サービス事業所へアンケートを実施した。このアンケート結果を計画策定に反映させ

るとともに、今後の障害福祉施策についても参考にしていく。

- ・協会との懇談、視覚障害者福祉協会、聴覚障害者協会と毎年行政懇談会などを開催しさまざまな要望を承っている。これらのご要望を踏まえ、障害福祉施策を検討していく。

まずは、台風19号災害に関連する障害福祉施設の復旧を最優先に考えているが、今後、市全体のバランスも考慮しながら障害福祉施策の充実に努めていくので、ご理解をお願いします。

第2回理事会の報告

11月14日、理事7名及び監事1名(1名欠席)が出席し、協会の定款に基づき「令和元年度前期の事業執行状況」について、理事長及び事務局から報告を行いました。

また、現在作成中の「令和2年度事業計画・予算」について、概要説明を行い、ご意見・ご要望などをお聞きしました。次回3月開催の理事会に最終案を提出し、決定いただく予定です。



秋の静岡・堂ヶ島満喫の旅

朝陽支部 高見澤陽子

10月24日、25日と35名参加で秋の旅を楽しみました。天気が少し心配でしたが、御殿場高原目指してバスで出発しました。

車窓からは紅葉した美しい景色が見え、秋を感じます。昼食を終え外に出ると、富士山の山頂部が顔を出してくれました。運よく雲がきれて拝む事ができよかったです。

芦ノ湖では箱根海賊船「ロワイヤルII」で桃源台から箱根町港まで乗船し、船長(銅像)さんと一緒に記念撮影しました。海外からの観光客も多く、隣席の人は「台湾からです」と上手な日本語で答えてくれました。私も外国語ができれば、いろんな話ができていいだろうなあと思いました。

2日目は残念ながら朝から雨。世界遺産菰山反射炉見学は車中からになりました。江川父子により完成した反射炉は、実



際に稼働した唯一のものと聞き、高い煉瓦積煙突の下で働く当時の人々が偲ばれました。

沼津港深海水族館では、深さ200mを超え生息する深海生物を見ました。3億年前から生き続けたシーラカンスや光の届かない闇と高水圧で生きる生物：これからのたくさんの新発見に期待します。

帰路の車中から富士山の下半分が見られ、前日と合わせて「富士はやっぱり日本一」の旅でした。

楽しかった陶芸教室

青年部長 須藤今朝信

料理教室の予定を陶芸教室に変更し、11月27日(水)に、参加者12名が障害者福祉センターに集まり、篠ノ井で陶芸教室を開いている丸山先生の指導で、朝ドラ・スカーレットでお馴染み、タヌキの置物で有名な滋賀県信楽焼(しがらきやき)の粘土を使って、お皿、湯呑み茶わん、表札、の中から各自1点を作りました。



第2回健康教室

11日7日、27名の会員の参加をいただき、長野市地域包括ケア推進課の吉野美穂子先生から「いつまでも口からおいしく食事を食べること」が、いつまでも元気で過ごす秘訣」。

- ① 食事はよく噛みましょう…ひとくち30回程
- ② 食事環境を整えよう.. 背筋を伸ばした正しい姿勢で適度なひとくち量
- ③ 口



とからだの元気体操をはじめよう.. むせたり、飲み込みにくくならないよう、食事の前に「背伸びや口・頬・舌の体操」をしましょう。 :とお話がありました。

この後の、乾燥、素焼き、色付け、そして約一、二五〇度で焼き上げる本焼きの工程を先生にお願いし、およそ1ヶ月後には完成品がセンターに届く予定です。自信作の素晴らしい出来上がり、皆さんとても楽しみにしています。

青年部の日帰りの旅に参加して

本部 北村 忠三

9月18日、晴れ男の私は鉛色の空模様を見上げ悪い予感?

8名乗車のマイクロバスは8時半に一路飯田を目指し出発、11時過ぎ不安をよそに無事飯田に。名物「ソースかつ丼」を頂き、目的の「満蒙開拓平和記念館」に1時過ぎに到着。

戦中戦後の先人の血と涙の歴史を改めて認識。「前事不忘、後事之師」今日の平和には多くの先人の苦難苦勞あつた事を忘れてはならない。

令和元年に当たり、改めて戦争の悲惨さ空しさ、現在の平和をどう守るか?地球での人類の危機を、どうあるべきかを再確認させられた:武器で殺しあう戦争から、情報力操作戦争で生かされている世界。

「福祉社会づくり」が遅々とし進まない現状。障害者が世界から無くならない世の中、真の「ユニバーサルデザイン」の実現に向け真剣に考えよう。



縁側から語りつく「縁が和リレー」

楽しいボランティア

川中島支部 平川 君井

民生委員である友人は、市内の小学校の「学校運営委員」を務めています。その友人からの薦めで「学習支援サポーター」を始めました。週二日間の午前中だけのボランティア活動ですが、小学校へ通い始めてからもう5年が過ぎました。

私の希望で担当は、特別支援学級の1年生から6年生です。学校の先生に教材と担当する児童を決めて頂き、マンツーマンで授業を進めます。

算数の時間では二桁の足し算と引き算をするのですが、指を使って計算している児童から(自分の指の数足りなくなり)、「先生、指を貸して!」と...でも、何度も勉強するうちに頭で考えて答えを出せるようになります。私は「正解です!」と言って赤丸をすると、ニッコリします。

パソコン専用の教室での授業が大好きで上手に操作していて、私は時々教えてもらっています。

この素直で元気な子供達から元気をもらい、これからも楽しく授業を進めていこうと思います。

支部だより

浅川支部長 高見澤徳三

発足当初は、城山支部と一緒にいろいろと協同し活動していたが、その後独立し浅川支部となる。

浅川地区は、永い歴史と伝統文化を持つ集落と、多方面からの新住民が新興住宅に生活する文化とが、多様な価値観の違う住民相互の交流がスムーズにいかなかった時期があり、浅川支部も人面や思惑の違いでこの影響を受けた。その後、紆余曲折を経ながら先輩、関係者の支援協力のもと維持継続のなか、障害者施策・サービスも法律・条例の整備により充実され隔世の感は否定できないが、一方では個人の人権、尊厳等の重視により個人情報保護法により、支部会員勧誘は打つ手無しになり、支部会員勧誘は打つ手無しの状態が続く。自然減を含め新規会員加入は見込めず、組織は先細り弱体化し組織維持に窮する現状である。

組織の目的は、障害者の生活の質の充実向上である。当支部は、支部の現実を凝視し現会員の福祉向上に真摯に向き合い努力しているが、活動可能な会員は払底し会員補充の目は厳しく、先行きは不透明である。

「猫面瓦」散歩19

篠ノ井の巻②

本部 相原 文哉

篠ノ井の築地籍の交差点を西北へ200mほど進む。道路がやや西北へカーブしはじめる手前、「恐竜口(動物公園入口)」の道路標識があり、その丁字路の西角に古い民家がある。

切妻造り二階建。東面の切妻屋根大棟の端に猫面瓦(小型の鬼瓦)、西端にも存在する一棟に二面ある貴重な例である。普通は母屋の棟には猫面瓦はつけないので、その意味では珍しい。その形・姿は図のように棟に掛ける(載せるのではない)タイプなのでアゴがある。その表面には陽刻の二つ渦の雲がフワリと浮かび上がる文様で珍しい。もちろん「水神、防火」というわけである。



行事予定

- ◆ニュースポーツ競技会と歌声広場
 - 期日・場所: 2/16(日)、障害者福祉センター
 - 申込み: 支部長へ(本部会員は2/6(木)までに事務局へ)
 - ニュースポーツ競技会: 午前10時~12時
 - 講師 障害者スポーツ協会指導員
 - 歌声広場: 午後1時~3時 講師 浅川英士子先生
- ◆会員・家族合同慰安会
 - 期日: 2/27(木)~28(金)
 - 場所: 上山田温泉「ホテル圓山荘」
 - 会費: 9,000円
 - 申込み: 支部長へ(本部会員は2/6(木)までに事務局へ)
 - ※集合場所・時間等は、後日お知らせします。

編集後記

令和元年度より編集委員を担当することになりました、理事の丸山顕です。会報「幸わせ」発行の一助になればと思ひ引き受けました。

会員の皆様から多くの記事をいただき、親しみが湧く情報誌になればいいと考えています。沢山の投稿を、事務局までお寄せください。

編集委員 丸山 顕